

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 受賞記念展のお知らせ

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、「Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 受賞記念展」を開催します。

Tokyo Contemporary Art Award は、海外での活動に意欲を持つ中堅アーティストを対象として、継続的な支援を目的に、平成30(2018)年度に創設された現代美術の賞です。本展はその第4回の受賞者であり、今後の飛躍が期待されるサエボーグと津田道子による展覧会です。

【展覧会概要】

展覧会名： サエボーグ 「I WAS MADE FOR LOVING YOU」 /

津田道子 「Life is Delaying 人生はちょっと遅れてくる」

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 受賞記念展

会 期： 令和6(2024)年3月30日(土曜日)から7月7日(日曜日)まで

会 場： 東京都現代美術館 企画展示室3F(東京都江東区三好4-1-1)

開館時間： 10:00から18:00まで

休 館 日： 月曜日(4月29日、5月6日は開館)、4月30日、5月7日

入 場 料： 無料

ウェブサイト： <https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/>

主 催： 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーアーツアンドスペース・東京都現代美術館

協 力： TARO NASU



ウェブサイト

(その他の詳細は別紙をご覧ください。)



令和4(2022)年3月20日(日曜日)に開催されたTokyo Contemporary Art Award 2022-2024授賞式の様子。授賞式では受賞記念プレート等が授与されました。

写真の前列中央が津田道子さん。サエボーグさんは渡英中のためオンラインで参加。

本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。

戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略「芸術文化の担い手サポートプロジェクト」

問い合わせ先

生活文化スポーツ局文化振興部文化事業課

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

トーキョーアーツアンドスペース事業課

電話 03-5000-7235

電話 03-5245-1142

本展について

第4回受賞者による本展は、それぞれの個展として「I WAS MADE FOR LOVING YOU」と「Life is Delaying 人生はちょっと遅れてくる」というタイトルを冠しました。隣り合うふたつの展覧会は制作に対する関心もアプローチも大きく異なり、それぞれが独立したものでありながら、展示室内での鑑賞者のふるまいが作品の一部となるという共通点を持っています。鑑賞を通じて自身に向き合うことで、動物を含む他者との関係性や、社会的に期待された役割などに目を向けることにもなることでしょう。

■ サエボーグ「I WAS MADE FOR LOVING YOU」

主な表現手段であるラテックスのボディスーツによるパフォーマンスは、回を重ねるごとに内容をさまざまに変容させ、新たなキャラクターを生み出し続けてきました。これまでのパフォーマンスを土台に作り上げる本展では、作品の軸となってきた人間と動物の関係性というテーマの中で、「ケア」の視点に立った作品を発表します。展示室の中では鑑賞者がパフォーマンスの一部となることで、観る側が時として観られる側に回るような、美術館の展覧会の構造を利用した仕掛けを試みます。



「Ultra Unreal」展示風景（シドニー現代美術館、2022）
撮影：アレックス・デイヴィス



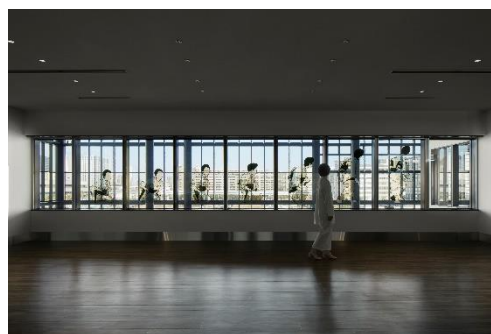
「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代『House of L』」
公演風景（愛知県芸術劇場、名古屋）
撮影：蓮沼昌宏

■ 津田道子「Life is Delaying 人生はちょっと遅れてくる」

近年強く関心を寄せている「身体性」について追求する中で、自身の幼少期に、ビデオカメラが家に来て最初に撮影されたホームビデオに収められた家族の出来事から着想した新作を中心に、映像装置が組み込まれたインスタレーションを発表します。撮影者の視点がレンズ越しに収められたどこにでもありそうな出来事の再演は、家族という最小単位の社会による、きわめて個人的な記録を起点としながらも、集団の中での人々の立ち位置やシステムへと、その領域を広げていきます。



《東京仕草》2021/2023「ICC アニュアル 2023 ものごとのかたち」
展示風景（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、2023）
撮影：木奥恵三
画像提供：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]



《東京仕草》2021「Back TOKYO Forth」展示風景
（東京国際クルーズターミナル、2021）
撮影：Akira Arai (Nacása & Partners Inc.)

「身体」をひとつの起点とする両者は、作品制作と身体表現の実践を行き来することで、その独自の表現を発展させてきました。会期中には、展示のほか、パフォーマンスなどのプログラムを通じて、展示空間と鑑賞者の身体を架橋するような体験へと誘います。

関連イベント

アーティスト・トーク

TCAA 2022-2024 選考委員と出展作家が選考を振り返りながら本展出展作品や今後の展開について話します。

日時： 3月30日(土) 14:00-15:30 (開場 13:30)

出演： サエボーグ、津田道子、ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ (クンストインスティテュート・メリー ディレクター／TCAA 2022-2024 選考委員)

モデレーター： 塩見有子 (特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT] ディレクター／TCAA 選考会運営事務局)

会場： 東京都現代美術館 地下2階講堂 (江東区三好4-1-1)

※入場無料・要事前申込・先着順／日英同時通訳あり

※その他、各種イベントを開催予定です。申込方法等の詳細は、3月上旬にウェブサイトでお知らせします。

モノグラフ

作品画像に加え、作品や制作についての作家のテキスト、専門家による寄稿を掲載した作品集を作家ごとにバイリンガルで2024年7月に発行予定です(非売品)。また、発行後、ウェブサイトでの公開のほか、希望者への郵送配布を行う予定です。配布方法等の詳細はウェブサイトでお知らせします。

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024

受賞作家略歴、コメント

サエボーグ | Saeborg

1981年富山県生まれ、東京都在住。半分人間で、半分玩具の不完全なサイボーグとして、人工的であることによって、性別や年齢などを超越できると捉えるラテックス製のボディースーツを自作し、パフォーマンスとインスタレーションを国内外で展開する。カラフルで、デフォルメされた雌豚や牝牛などの家畜や害虫などが繰り広げるパフォーマンスは一見明るく楽し気だが、人間の残酷性や消費の問題のみならず、人間社会における介護やケアの問題にも接続し、強者/弱者、支える側/支えられる側という二項対立ではおさまらない、多様性の受容、共生の問題に発展させている。

近年の主な展覧会や公演に、「ミドルズブラ・アート・ウィーク」(イギリス、2023)、「世界演劇祭2023」(フランクフルト、オッフェンバッハ、ドイツ)、「Ultra Unreal」(シドニー現代美術館、2022)、「Reborn-Art Festival 2021-22」(牡鹿半島(桃浦)、宮城、2021)、個展「LIVESTOCK」(PARCO MUSEUM TOKYO、東京、2021)など。

展覧会へよせて

今回の展覧会では、昨年の海外滞在リサーチでの経験や近作《Super Farm》を下敷きにした新作を発表します。ここで皆さんには家畜キャラクターに変身してもらい、ライフサイズの玩具のような牧場空間で、普段とは違う、動物的な体験をしてもらうことを構想しています。動物になった私たちの前に現れる謎の存在と私たちは仲良くすることができるのか？他者と自分、肉体と化学製品、生き物の種族やエコシステムのあいだを取り囲む壁を、超えることができるのか？皆で動物になって叫ぼう！

ブーブーモーモーメーメー、コケッココー！！



「Dark Mofa 2019『Pigpen』」公演風景
(Avalon Theatre、ホバート、オーストラリア)
撮影：Dark Mofa 2019



「Cycle of L」公演風景(高知県立美術館、2020)
撮影：釣井泰輔

津田道子 | TSUDA Michiko

1980年神奈川県生まれ、石川県在住。映像メディアの特性にもとづき、インスタレーションやパフォーマンスなど多様な形態で制作を行う。映像装置とシンプルな構造物を配置し、虚実入り混じる作品空間が、鑑賞者の視線や動作を操作し、知覚や身体感覚についての考察へと導く。また、2016年よりパフォーマンス・ユニット「乳歯」として、小津安二郎の映画作品における登場人物の動きを詳細に分析し、そこに内在する人との距離や、女性の役割に関する問題を可視化するパフォーマンスなどを展開する。

近年の主な展覧会や公演に、個展「津田道子 so far, not far」(金沢アートグミ、2023)、「とある美術館の夏休み」(千葉市美術館、2022)、「第10回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(クイーンズランド州立近代美術館、ブリスベン、オーストラリア、2021)、個展「トリローク」(TARONASU、東京、2020)、『『インター + プレイ』展 第1期』(十和田市現代美術館、青森、2020)、また、乳歯として「OPEN SITE 2019-2020」(TOKAS 本郷、2020)など。

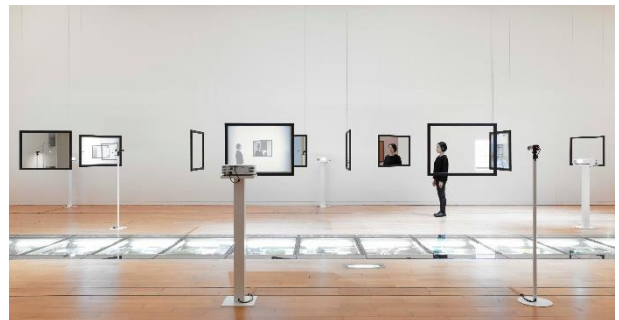
展覧会へよせて

コロナ禍に身体への関心が大きく変化したのは、私だけではないと思います。例えば家族のような最小単位の社会においても、他者との距離を意識することが身体の振る舞いに関わっていることを経験しました。カメラの位置やフレームと映る人の関係が、身体が持っている距離感を測る道具になると考えてます。

この展覧会は、ポスターが剥がれてるのを見つけた時に、そっと貼り直すような、しなくてもいいことだけど、気づいたことに働きかけた延長にあります。



《so far, not far》よりスチル画像 2023



《あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょう。》2016
「オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス」展示風景
(NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、2016)
撮影：山本紉

Tokyo Contemporary Art Award について

本賞は、海外での展開も含め、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる国内の中堅アーティストを対象とした現代美術の賞です。アーティストのキャリアにとって最適な時期に最善の支援内容を提供する必要性を重視し、受賞者の選考は、選考委員によるアーティストのリサーチやスタジオ訪問により、制作の背景や作品表現、キャリアステージへの理解を深めた上で行われます。受賞者に対しては、海外での活動支援のほか、東京都現代美術館での展覧会およびバイリンガルでのモノグラフ（作品集）の作成など、複数年に渡る継続的な支援を行います。

【これまでの受賞者】

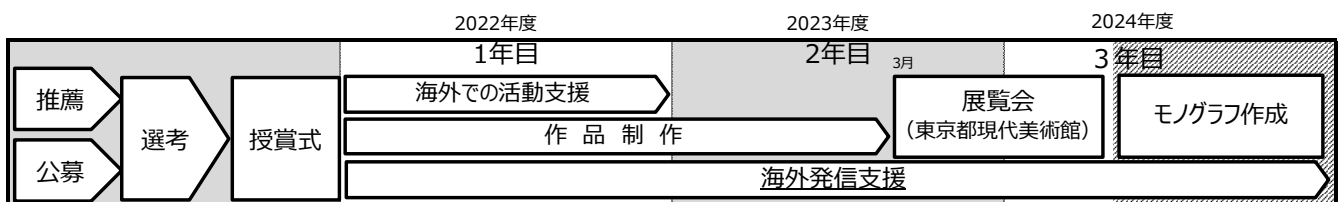
- 第1回 TCAA 2019-2021 風間サチコ / 下道基行
 第2回 TCAA 2020-2022 藤井光 / 山城知佳子
 第3回 TCAA 2021-2023 志賀理江子 / 竹内公太
 第4回 TCAA 2022-2024 サエボーグ / 津田道子

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 概要

【支援内容】

- 賞金 300 万円
- 海外での制作活動支援 / 上限 200 万円（旅費、滞在費、調査・制作費等）
- 展覧会実施（東京都現代美術館）
- モノグラフ（作品集）の作成・海外発信支援

【スケジュール】



【選考委員】 ※肩書は 2021 年選考会実施時のもの

ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ	クンストインスティテュート・メリー ディレクター
高橋瑞木	CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) エグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター
キャロル・インハ・ルー	北京中間美術館 ディレクター
野村しのぶ	東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター
鷺田めるろ	十和田市現代美術館 館長
近藤由紀	トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター (公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長)

【選考会運営事務局】

特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト]